

令和3年度 高知市食育推進会議 議事録

日時：令和3年11月24日（水）18：30～19：30

場所：総合あんしんセンター3階 大会議室

1 開会（司会：健康増進課 課長補佐）

2 新任委員紹介（司会より紹介後、自己紹介）

3 報告事項

① 令和2年度 of 取組報告・令和3年度 of 取組状況について

資料1を用いて事務局（令和3年度 of 取組状況の一部については教育政策課）が説明

【質疑応答】

〈三谷委員〉

コロナ禍の大変な状況の中で、きめ細やかに、いろいろとよく考えてやってくださっている気がします。16ページの8番の低栄養予防プログラム、高齢者支援課の取組ですけれども、この10品目の…パンフレットを見せていただいたんですけど、これは高知県でNPO法人の食と健康を学ぶ会が長いこと取り組んできたことと全く同じだと思うんですけども、NPO法人の食と健康を学ぶ会と関わりは全くないわけでしょうか。そこは関わりなく、高知市がこれを全部、取り組んでいるということでございますか。

〈高齢者支援課〉

今回のこの取組ですが、いきいき百歳体操の会場で希望をつのり、低栄養予防の教室を行っているものになります。

体操と口腔と栄養をセットとして考えているもので、今回ご紹介したものについては、高知市の高齢者支援課が独自で行っているものではありませんが、三谷委員がおっしゃいました10品目のチェック表については、熊谷修先生の監修のもので、ツールとしては同じものを使っている形にはなります。

② 第4次食育推進基本計画について

資料2を用いて事務局が説明

〈渡邊会長〉

令和3年度から5年間の食育を総合的かつ計画的に推進していくための、国の第4次食育推進基本計画について報告がありました。令和4年度からは高知市でも、第4次高知市食育推進計画を策定準備が始まるので、どうぞご協力をよろしくお願いいたします。

4 検討事項 テーマ「新しい生活様式」における、若い世代を対象とした食育推進について

〈事務局〉

当日配布資料を用いて事務局が説明

【主な意見】

〈三谷委員〉

先ほどの教育政策課からの郷土料理の皿鉢のYouTubeを見てもやっぱり、インターネットとかブログとか欠かせないので、こういうものを大いに活用して、食育を進めていくというのがいいのかなと。高齢者はテレビとかもあるのでいいと思います。

多様なメディアを使って、発信していくのがとても大事ななと思いながら、お聞きしておりました。

<西森委員>

やっぱり家で作るという機会もすごく増えているようですし、ブログ、SNS という、そういうメディアを使ってというのが多いですね。

正しく発信していくように、なれたらいいなと思いますけど。

いろいろ工夫をして、皆さん、やっていただいていることを聞かせていただきました。

やっぱり郷土料理とかは、非常に分かりやすく、良かったじゃないでしょうかね。

<濱渦委員>

私たちは日ごろの活動は足でかせぐという活動が多いです。

地区伝達講習会というのを 21 地区で、120 名余りのヘルスメイトが関わっておりますが、コロナ禍で地区伝達ができないということで、活動が本当に減ってきております。なんとかしなければということで、生活習慣病予防のためのバランス食、高齢期の低栄養、朝ご飯を食べよう、という三つのテーマで地区伝達を行っておりますが、なかなかそれができない状況です。そのメニューの中で、一品だけを取り上げて内容をお伝えして、皆さんに作っていただけるよう、高齢者の集まるミニデイ、いきいき百歳体操、また、ご近所さんのお家を訪問して・・・訪問といいますがお家の中に入っていくのは、なかなか難しいので、公園とかに集まってお話をしたりとか、少ない人数で集まる機会を見つけては、そちらへ行って啓発するというような活動を今年も行っております。

おかげさまで、9 月以降、活動が活性化してきているなと思います。

<渡邊会長>

いろいろ工夫されてるっていうことがよくわかりました。

<古谷委員>

若い世代をどう巻き込むかっていうのは、福祉においても同じ課題がありまして、非常に悩ましいところやなあ、同感だなあと思ったりしていました。

若い世代を対象とした食育推進については、様々な取組があると思いますが、逆にボランティアさんの協力が欲しいとか、協働してくれそうな担い手探しとか、若い世代ではないですが、以前、ヘルスメイトさんと一緒に取組をさせていただいたこともあるので、社協においては地域共生社会の実現に向けて福祉的な活動だけではなく、楽しそうとか、面白そうとか、人の興味関心から地域での繋がりが生まれる場や取組みにも非常に着目しておりますので、食はまさに人の興味関心が高いものだと思います。

ご一緒できる機会がありましたら、ぜひに、取組みをご一緒にさせていただいたり、どう若い人達を巻き込むのかとか、SNS 発信でどうやったらいいのかとか、一緒に考えさせていただけたらなと思いますので、ぜひお声掛けしていただけたらありがたいです。

よろしくをお願いします。

<和田委員>

まさに今、高校 3 年生を対象に家庭科、特に食生活の方の授業をしているんですけど、毎年なんですけど、学んだことがなかなか活用できておりません。朝食の欠食率が高い話もするんですけど、女性よりも男性に多いのはなぜかって考えさせても、大体やはり、作る技術が足りないとかいうことで、まあまあそういうことやねって話を持っていくんですけど、残念ながら実習の方もコロナ禍で止まっています、せめてと思って理想的な献立づくりであるとか、一人暮らしでもできそうな献立なんかを考えさせるんですけど、結局コンビニ飯とかそういった形になってしまって、どうしてそうやろうねっていう話をすると、やはり優先順位が低い。

あと、そのうち結婚するきいやみみたいな人任せなところがあって、やっぱりそれじゃいかんよね、男女共同社会よねっていう話をするんですけど、実生活になかなか結びつかない現状が、見え隠れし、本当に苦労しております。

そのあたりも学校の方で教えていきたいなとは思って、試行錯誤をしております。

<渡邊会長>

高校生もうちの大学生も同じような状況です。

<金井委員>

コロナがはやり始めたころには、高齢者の感染が非常に多くて、小中学生を含む若年層には感染が少なかったわけですが、家庭に帰れば高齢者と同居していることもあり、コロナ自体のこともあまり分からなかったため、過敏に反応して、すごく制限を厳しくして、去年度の後半ぐらいから徐々にゆるめはじめたところ、今年度に入るころから若い世代に出だしたということで、さらに厳しく対応せざるをえない状況になりました。

実際に陽性が出た場合、給食等の特にマスクを外して、至近距離で一緒に食べたということから濃厚接触者になり、というようなこととか、スポーツの大会で昼食を一緒にしたこととかからクラスターが発生したとか、合唱団から発生したというようなこともあって、かなり制限を受けています。

実際、給食もそのころから、黙って前向むいて食べるよというふうになって、非常につまらない給食風景になってしまっています。

現在は、コロナの発生が非常に抑えられて、緩めたいところなんですけど、第6波が来るのは確実ではないかというようなことから、どうしても小さい子というのは、いったん緩めたら元に戻すことは大変ですので、ちょっと様子を見ようかと、というようなところで推移をしています。

ただ、本校は栄養教諭がおりますので、毎給食の時に放送係の子から、今日の食材とか、体を作るもの、エネルギーになるものという紹介をしたり、栄養教諭が給食の配膳をするところに、ナスとか柚子とか地場産品のものを実際に持ってきて、子供に見せて、それでクイズを作り、子供が興味を持ってクイズに答えるというような、できる場所で頑張っているというのが現状です。

<渡邊会長>

いろいろご苦勞されてるかと思います。

<田岡委員>

歯科医師会として食育で何かを情報発信をしているかというところ、今ところ特にはないんですが、この若い男性がバランスのよい食事ができないというのって、コロナとか関係あるのかなと、正直なところ、僕も学生時代1人で生活したときに、ここでちょっと言えないようなひどい食生活だったので、若い男性が朝・晩きちんと1人でご飯作る率が低いというのは、コロナ云々は関係なく、単なる食に対する怠惰な考え方ではないのかなというふうには思います。

ただ、やっぱり食生活とか栄養価が落ちると、口の中の環境も悪くなっていくというのは、確実にあることですので、我々の日常の臨床で口の中の環境が悪い若い男性がこられたら、食生活についても一緒に指導してあげたらいいのかなというふうには、ちょっと考えさせられました。

<渡邊会長>

口腔内の衛生というのは、非常に大事ですので。

<江淵委員>

インターネット情報は非常に玉石混合で、選別すること大事だと思います。

しかしながら若い人にとっては、非常に、身近な情報源でありますので、正しい情報を提供していくということも、一つの重要なことだと思います。

<田村委員>

うちは、高知市民というか県民の方に接する機会が多いと思うので。

農林水産省のアンケートの結果のように、2020年度はかなり買い上げ点数が増えてですね、客数は増えることはなかったですが、買い上げ点数が増えて、やっぱり料理する方は増えたのかなという印象です。

2020年度の最初は、主食で、結構簡単に安くできるパスタとか小麦粉とかが、あつという間になくなり、今年については、安定はしているんですが、最近、また何か、リベンジ商品みたいな言葉も飛び交っているように、週末については、外食される方がまた増えてきているのかなという印象になります。

うちの活動としては、医食同源というのをテーマに食育活動をさせていただいて、今年度におきましては、近森病院の臨床栄養部とタッグを組みまして、管理栄養士の宮島さんに監修していただいたレシピを提案させていただいています。そしてピクトグラムのお話もあったのですが、ピクトグラムも今年から使わせていただいて、うちの折り込み広告チラシに大体19日の食育の日前後にチラシ掲載させていただいて、啓発させていただいております。

若い人むけにどうしてんの？って話になると、クックパッドにこの食育レシピを掲載させていただいて、毎月、大体2000アクセスぐらいはアクセスいただいて、レシピは拝見していただいているのかなというデータは取っています。

あと、店内は、デジタルサイネージを導入していますので、皿鉢の動画とかっていう情報あったんですけど、うちにいただければ店内で流すことも可能なので、ぜひご利用ください。

うちは今、ライン会員が1万人を超えてまして、1万1000とか2000とかっていう数字になっていますので、食育のこういう情報は、そちらで流させていただいているのと、インスタもフォロワーは3500ぐらいいらっやいますので、それで食育の情報を流しております。

もちろんフェイスブックとか、ツイッターを流しておりますが、今インスタが一番多いかな、SNSでは、ラインは、SNSですけど、コミュニケーションの要素が強いと思うので、ラインももちろん使っています。

今は、試食とかできないので、従業員に作ってもらうということをやっております。先ほどの、こういうバランスのとれた食事を従業員に作ってよってということで、食材代は負担するからってということでやっております。

実際に作ってもらい料理のコツだとか、マスタード少なめがよかったかもしれないとか、一緒にリンゴもつけましたとか、いろいろ作った後の感想とか、作った後の写真とかをいただいて、一緒にその情報を出しております。

これに、若い社員巻き込んでってということで、店舗をお願いしていて、僕も新入社員研修とかで、一緒に合宿したりしたんですけど全然料理つくれないんで、今いっしょに頑張っているところです。

<長野委員>

私はどっちかという、農産物を供給する立場側ですので、食育推進がですね、どんなことをすれば農産物を買ってもらえるかということ非常に期待するわけなんです。

食生活、コロナで生活が変化していると。以外と皆、言われるんですが、外食が減って巣ごもり需要と言われてるんですが、そこまでなかなかいってないみたいです。いろんな市場関係の方に聞いたらですね。ただ、外食が減っているのは確かなんです。それで家庭食が伸びているかって言えばですね、そうでもないらしい。食べてない方が、とも思うんですが。意外に外食で食べる量が、家庭で食べ量と同じかといえば、そうでもないみたいです。それがちょっと不思議なんです。

この資料をいろいろ見て、ちょっと見にくいんですが、巣ごもりじゃなくて、コロナで食生活が変化して、いろいろ変わってますよということを出していただけたらいいんですが。う〜ん、統計で調べて、朝食を食べてる頻度が何%とかですね。コロナでどうなったかという、そこらの情報が欲しかったんですが、そこがどう変化しているかわかりません。

いろんな担当部局の方が努力をして、いろんな取組をやってきています。ただ、私が思うのは、日本人が日本食を含めて、食の重要性っていうものが若い年代にしたがって、薄いよと。いかに食の大事さを、どういうふうに植え付けて行くかっていうことが、やっぱり、そこが最終かなと。今いろんな情報媒体が溢れてますので、いろんな形でそういった情報を発信していけるんじゃないかなと。やりゆう所もあると思いますけど。やっぱりまだ、全部へ浸透してないと。いかにそのへんをもっともっと情報発信して、食の大切さというのを分からさないと、なかなかですね。この食育推進でも、100にはならないんじゃないかと。難しいですよ。難しいんですけどね。特に若い人が朝食がないとか、率が高いんで。

農協も学校で、いろんな体験学習とかさせてやってるんですけどね。その場限りもけっこう多いかなあと。食が健康の源になるからっていうんですが、その体験をやるときはワイワイガヤガヤでやりゆうですけど、それがなくなったら、もう忘れてるかなと。常になんかの形で発信しよらんと、ちょっと駄目。駄目はいわれませんが。これが拡大していかんじゃないかなと。

〈渡邊会長〉

若い世代をどうしていくかってところで、いろいろとご苦労があるかと思います。

江渕委員がおっしゃったように、情報発信のところが非常に進んでいるということで、間違った情報が流れていかないってことが非常に重要だろうというふうに思います。若い人はそこでやっぱりとっかかりやすいと思いますので。

たくさんのご意見、本当にありがとうございました。

時間になりましたので、議事を終了させていただきます。

5 その他

食育応援ネットワーク「こうちし食育やるぞねっと」について

資料3を用いて事務局が説明

6 事務連絡

7 閉会